

■第1回策定委員会における意見

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
1	全体を通して	新型コロナウイルス感染症予防対策等を見据え、計画に取り込むのか、別枠にするのかということについての考えがあるか。	計画の中に、高齢者の新しい生活様式を念頭に置いた施策、対策を取り込んでいく必要があると考えますので、委員の皆さまには、計画の中で達成すべきことについて、感染症対策を織り込んだ形で、それぞれの立場からご提言いただきたい。	—
2	9～11	フレイル予防、介護予防に国をあげて予算をつけて、地域で推し進めようという動きがありますが、そのことについてどのように取り組む予定で、計画案にどのように書くか考えがあるか。	今年夏頃に、国の基本指針が示される予定ですので、その指針が示されましたら、それに沿った形で、事務局として提案させていただき、委員の皆さまにご意見を頂戴しながら計画に記載していきたいと考えます。	【1-(2)介護予防や健康づくりへの支援】
3	24	介護サービス事業者への指導・監査について、通知どおり、決まりどおりにいかない部分には、柔軟な対応をしていただきたい。	今回の新型コロナウイルス禍において、厚生労働省から非常時における取り扱いの緩和等が示されましたが、スピード感に欠ける部分もあり事業者として苦慮されたと思います。市としましても非常時には、状況に応じた柔軟な取り扱いができるよう国に働きかけていきたいと考えています。	【3-(2)介護サービスの適正な実施】
4	52	基準どおりの人員では手厚い介護が難しい中で、少しでもイレギュラーなことがあると立ち行かなくなるという経験している。外国人労働者の確保で、EPA(経済連携協定)の事業はなかなかマッチングしない。今期計画では、概ね計画どおりとなっているが、見直さないと厳しい。	要介護認定者が増え続ける中で、介護人材不足はより深刻化していくことが予想されますので、介護人材の確保に向けて見直しをしていく必要はあると考えます。	【5-(3)介護や相談業務に携わる人への支援の充実】 【5-(3)-②介護に携わる人の創出、育成】

■委員による後日提出意見

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
5	参考資料3 4ページ	加古川町の高齢化率は市内で最も低くなっているが、もっと細かな区分けが必要ではないか。特に篠原町・寺家町・本町は昔からの住民が多く、高齢化率はかなり高いと考える。統計の在り方を再考いただきたい。	中学校区あるいは公民館エリア単位で設置を進めている「ささえあい協議会」等で地域課題を検討する際には、そのエリア内の統計データも活用しながら、地域の特性に応じたきめ細やかなまちづくりを進めていきたいと考えています。	—

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
6	全体を通して	地域共生社会の考えについても盛り込む方がよい。	第1回策定委員会会議資料「参考資料6」(厚生労働省社会保障審議会介護保険部会資料抜粋)でお示ししたとおり、「地域共生社会の実現」について記載を充実する事項(案)が示されておりますので、計画の中に盛り込みたいと考えております。	—
7	5	生涯学習については、身体的に自立した人が取り組む印象があります。たとえ、身体に不自由なことがあっても、webやケーブルテレビ等で学ぶ機会があってもよいと思います。	いただいたご意見をもとに、幅広い方にご参加いただけるプログラムを検討していきます。	【1-(1)地域社会への積極的な参加促進】
8	5~8	○高齢者が自分らしく暮らせる地域づくり(自助)について (課題) ・生涯学習活動で学習した成果を発揮する場の提供(インプットからアウトプットへ) ・地域社会への参加意欲の低い高齢者への対応が必要 (意見) 積極的余暇(学習・研究、趣味・娯楽、社会活動等)を増やすことで老化を防ぎ、生きがいを見つけることにつながる。 例えば、生涯学習の視点からの具体的方策として ・学びから自らの活躍の場を発見するとともに、生涯学習施設が提供するシステムづくり ・新たな就労に繋がる学びの企画 ・学び直しから、新たな仲間とともに地域・社会活動に参加する機会喚起 ・「学び」を主とした生涯学習から、「仕事」や「地域貢献・社会活動」をつくり出すシステムが必要。	公民館での事業や放課後子ども教室事業などで、高齢者大学生やOB、登録団体などに協力を呼びかけ、子育て世代向けに講座を実施するなど、学んだことを生かせる場づくりに取り組んでいます。しかしながら、協力いただける人は固定化されているため、引き続き、募集や事業を工夫し、参画いただける雰囲気づくりに取り組んでいます。  世代間交流事業では、高齢者だけでなく幅広い世代の参加が見込まれる事業です。その中で、普段の学習を生かした発表の場を設けたり、普段あまり触れ合うことのない様々な世代と交流をはかったりすることで、地域社会へ参加し、また貢献することが出来ると考えています。	【1-(1)地域社会への積極的な参加促進】
9	8	今後の方針に、生活困窮者の状態とありますが、これは高齢者の生活困窮者の状態のことでしょうか。もしそうであれば、生活困窮者自立支援事業との協働や連携があってもよいと思いました。	ご指摘のとおり、本計画においては高齢者の生活困窮者をイメージしたものです。就労意欲のある高齢者と事業所のマッチングがかなうよう、生活困窮者自立支援事業とも連携を図ってまいります。	【1-(1)地域社会への積極的な参加促進】 【④雇用・就労相談への支援】

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
10	12～15	<p>○高齢者を互いに支えあう地域づくり(互助)について (課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守る側のマンパワー不足</li> <li>・見守りが必要な高齢者の個人情報を見守る側全体で共有できない。</li> <li>・各種団体への事業補助や福祉バスの運行等は、利用者・参加者の固定化が見られるなど、その有効性の検証が必要。</li> </ul> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互助にあつては、住民、自治会、ボランティア、NPO、民間企業、家族介護当事者組織など、多様な主体により支援を必要とする人や、その家族を支えることが必要。</li> <li>・地域で支え合うネットワークづくりを促進するためには、地域の社会資源を把握するとともに、地域で困難を抱える対象者を早期に発見し、必要とするサービスにつなぐ「支援のつなぎ役」が必要。各地域での「ささえあい協議会」がその役割を担う必要がある。</li> <li>・生活全般の支援が機能するための支え合うネットワークづくりと、元氣な高齢者の活躍の出番づくりの早期構築が必要。</li> </ul>	<p>ご指摘のとおり、超高齢社会を迎えている本市において、見守る側のマンパワー不足は深刻な課題であると考えています。また、地域における社会資源について十分に把握できていません。</p> <p>この需要と供給の状況を可視化し、市民・行政・事業者等での危機感を共有し、積極的な仕掛け作りとその結果もたらされる地域ごとのネットワークづくりの強化を目指したいと考えます。</p> <p>ささえあい協議会を設置し、地域全体で考える場を作ります。また、元氣な高齢者が支え手となる仕組みについて検討が必要であると考えます。</p>	【2-(1)高齢者の見守り体制の構築】
11	12,16	<p>中学校区といっても、それぞれ人口、広さ、社会資源等が違うので、生活支援コーディネーターの配置においては、現在配置の6人で12中学校区を対応することは困難な状況です。また、サービス圏域は中学校区、日常生活圏域は小学校区といわれることもあるので、ニーズとのマッチングを見据えるためには、生活支援コーディネーターによる支援体制の増強、拡充が必要だと考えます。併せて圏域の見直しも検討が必要だと考えます。</p>	<p>地域の特性に応じたきめ細やかなまちづくりを進めるために、日常生活圏域の設定についてこの策定委員会でご検討いただきたいと考えています。</p> <p>そのうえで、生活支援コーディネーターによる各圏域における地域支援について、必要量を見極めながら対応したいと考えています。</p>	<p>【2-(1)高齢者の見守り体制の構築】</p> <p>【2-(2)生活支援サービスの充実】</p>
12	12～15	<p>見守る側のマンパワー不足とありますが、ボランティアによる見守りが期待されている印象があります。最近では、75歳を超えても働くことがあり、新型コロナウイルスによる不況の影響で、さらにマンパワーが不足することが予想され、これを福祉だけで解決することは困難だと考えます(産業、経済、雇用とも関連)。</p>	<p>ご指摘のとおりです。市役所内の横断的な連携を図りながら進めたいと考えます。</p>	【2-(1)高齢者の見守り体制の構築】
13	15	<p>老人クラブへの加入率や加入者数に関する傾向を見ていると、改めてそのあり方や、行政等による支援のあり方についても、検討する必要があると考えます。</p>	<p>老人クラブについては、年々加入者数及びクラブ数の双方が減少傾向にあります。</p> <p>一方で、多様化が進み、老人クラブに所属することなく、様々な活動に参加する方も少なくありません。</p> <p>老人クラブへの行政の関わり方については、様々な角度から支援のあり方について検討してまいります。</p>	【2-(1)高齢者の見守り体制の構築】

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
14	16,17	生活支援サービス体制整備事業と生活支援体制整備事業の整理が必要だと感じました。併せて相関関係がわかる方がよいと思いました。生活支援サービス体制整備事業の中に生活支援体制整備事業が含まれているとは思いますが、誤解を招く恐れがある。	ご指摘のとおり、「生活支援サービス体制整備事業」の中に、「生活支援体制整備事業」(地域で生活支援の体制を検討する「ささえあい協議会」(第2層)の運営支援)が含まれると考えますが、名称がまぎらわしいので、整理して提示する必要があると考えています。 ※「生活支援サービス」とは、介護保険の「介護予防・生活支援総合事業」の中で行われるサービスと、ささえあい協議会が仕組みとして作るサービスの2つあると考えます。	【2-(2)生活支援サービスの充実】
15	20	運転免許返納によって閉じこもりやすくなり、認知症傾向になりやすいと言われているが、身体機能低下防止の観点からもきめ細やかな交通整備を検討いただきたい。例えば、資料5-2(P51)の志方町の「ささえあい協議会」での乗合車両の運営を広げてほしい。	路線バスが経営状況の悪化や乗務員不足などの理由から減便や路線休止が進んでいる中、市ではバス路線への補助や小型のコミュニティバス「かこバスミニ」への転換などにより、公共交通網の維持を図っているところです。 また、令和2年度に八幡町でデマンドタクシーの実証実験を予定しており、今後も様々な移動手段の確保を図っていきたいと考えております。	【2-(3)地域での多様な活動機会の提供】 【2-(3)-③外出支援の充実】
16	20	Cの②について、乗車人数を見込めないとのことですが、ルートについては地域へのヒアリング等を踏まえ決定されたものと思いますが、志方地区においては、最寄りの停留所までの移動が困難であり、結果的に自家用車を利用するしかない印象があるため、利用促進を目的としたパーク＆ライドのようなものがあればよいと思いました。	志方市民センターなどの広い駐車場が近くにある停留所であればパーク＆ライドが可能ですが、ほとんどの停留所はそのような場所のないところに設置せざるを得ないところがほとんどです。 そのため、大型車両の路線バスから小型車両のコミュニティバスへと転換を図る中で、地域内をきめ細やかに運行することにより停留所への距離を少しでも短くできるように検討しております。 また、インフォーマルサービスも活用しながら利便性の向上を図ります。	【2-(3)地域での多様な活動機会の提供】 【2-(3)-③外出支援の充実】
17	27	多職種の人が集まり、色々な話が出て、地域課題の洗い出しができていのに、解決のための施策展開が出ていないのはもったいないと思う。なぜできていないか原因を考え対応することで、良い方向が見い出されると考える。	地域課題の洗い出しにとどまらず、課題解決のための取り組みを進めます。	【4-(1)地域包括ケアの深化・推進、連携の強化】 【4-(1)-③地域ケア会議の充実】
18	27	自立支援に向けたケアマネジメントを実施するための地域ケア会議の対象者を要支援と事業対象者に限らず、要介護の人も視野に入れていただきたい。	自立支援型の地域ケア会議については、現在加古川市においては、自立支援に資するケアマネジメントにより、生活機能の改善が見込まれる事例を対象としており、要支援認定者・事業対象者を対象としています。要介護認定者を対象とした地域ケア会議については、他市の事例も参考にしながら、調査研究してまいります。	【4-(1)地域包括ケアの深化・推進、連携の強化】 【4-(1)-③地域ケア会議の充実】
19	31	Gの受診勧奨について、治すための受診なのか、備えるための受診なのか気になりました。両方ともであったり、様々な目的はあると思うのですが、なぜ受診した方がよいかもわかりやすく明示できたらよい。	脳の健康チェックはスクリーニング検査で、診断をするものではありません。一般的な健診と同様に、疑いのある人は精密検査を受けて、異常がないか、治療が必要なのかを判断するのは医療の領域となります。分かりやすい表現に努めます。	【4-(2)認知症施策の推進】

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
20	29～35	認知症に関する施策の中で、対象になる方や予備軍の方々は、近所の方や様々な方とのつながりが必要不可欠だと思います。コロナウイルス対策で互助や共助が大きく制限されている中で、自助でも限界があると思うので、キャラバンメイト連絡会のみでなく、他の団体とも連携を取れる体制を整えていただきたいと思います。	認知症施策については、庁内関係各課はもちろん、医療機関、警察、消防、介護事業所、金融機関、商業施設等多様な機関と連携を図っており、今後も必要に応じて連携に努めます。	【4-(2)認知症施策の推進】
21	29～35	様々な予防事業や取組がある中で、興味のある医療職、介護職からの声を多数聞いています。情報を発信することや啓発活動にも力を入れていければと考えています。また事業への参加が望ましい人材が把握できるようなリストがあってもいいのではとも思います。加古川市内でも、都市部や過疎地が分かれており、同じ地域包括支援センターでも取り組みが違うので、公の場での情報交換も多く実施してもらえたらと思います。	行政と地域包括支援センターの職員が、職種毎に部会を定期的開催しております。この場において情報交換ができますので、各地域包括から持ち寄り、有効に活用していただきたいと思います。また、情報発信に努めます。	【4-(2)認知症施策の推進】
22	37	介護用品支給事業や車いす貸与は介護保険で適用できないか？地域福祉の管轄ということは、他法優先ということか？	介護用品支給事業については、介護保険制度内で実施しています。車いす貸与についても、介護保険制度内の福祉用具貸与サービスで利用いただける方にはこちらをご利用いただいております。また、介護保険制度の対象とならないものの、一時的な利用についての車いす貸与事業もあり、こちらは原則2週間、最大1ヶ月の貸与を認めております。	【4-(3)介護者への支援の充実】
23	41	B③の生活支援ハウスについて、「地域共生社会」という考え方からすると「緊急一時保護施設」としての活用も検討していただきたいと思います（他制度、他計画、他施策との協働・連携という意味で）	生活支援ハウスについては、困難な事例を抱えた高齢者へ一時的に利用できる住居を提供することを目的として補助を受け整備された施設です。このため、他の目的での活用については、対応が難しいのが現状です。	【4-(4)高齢者が安心して生活できる居住環境の整備】

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
24	42	<p>○新型コロナと災害について 町内会として対応に苦慮している。 ・住民を事前の取り決めに従って、指定の避難場所に導いてもよいのか。 ・避難場所が3密に対応できているのか、できるのか。 ・町内に住んでいる要避難支援者をどうやって、どこに、誰が誘導できるのか。</p>	<p>避難とは、難を避けることです。ハザードマップを確認いただき、自宅が安全な場所である場合は避難場所への避難は不要です。 安全な場所に親戚や知人宅がある場合は、そちらへの避難も新型コロナウイルスへの感染拡大を防ぐうえで有効な避難方法の一つです。 また、避難場所での3密対策として、従来よりも多くの避難場所を開設する予定です。 避難行動要支援者の支援は必ずしも避難場所への誘導が必要となるものではありません。避難情報などの声掛けや親族などへの連絡を希望されている人もいますので、まずは町内にお住いの避難行動要支援者を把握いただくとともに、避難情報の声掛けを行う方や避難誘導を行う方などを決めていただき、支援体制を構築いただきたいと思います。</p>	【4-(5)高齢者が安全に暮らせる体制の推進】
25	42	<p>今、世界中が新型コロナウイルス感染症の渦中にあるが、有事の時の対策の中に自然災害だけでなく、ウイルス感染時の対応も含めて指針を出さないといけないのではと思う。</p>	<p>加古川市新型コロナウイルス感染症対策本部決定による「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応」について、国や県のからの通知等に基づいて、市の方針を決定しています。 また、新型コロナウイルス感染症等特別措置法に基づき、「加古川市新型コロナウイルス感染症等対策行動計画」を策定しています。 すべての取り組みを進めるにあたり、ウイルス感染拡大期にいかにか柔軟かつ適切に対応できるか検討に努めます。</p>	<p>【4-(5)高齢者が安全に暮らせる体制の推進】 【4-(5)-①防災・防犯対策の推進】</p>
26	43	<p>高齢者の免許返納について、20ページとも関連しますが、調査対象については特に返納が少ない地域や路線再編された地域の声を聴いてほしいです。</p>	<p>交通安全対策の一環として、運転に不安のある高齢者が自主的に免許返納しやすい取り組み等の調査研究をしています。 また、移動手段の確保等にかかる具体的な取り組みについては、市全体の課題として検討を進めています。 なお、地域のきめ細やかな意見については、ささえあい協議会の場や町内会等各種団体を通じて把握に努めます。</p>	【4-(5)高齢者が安全に暮らせる体制の推進】
27	43	<p>免許返納の特典とは何か？免許返納は、車利用の便利さを生活の中に組み込まれているので利用者にとって手厚い支援がないと安心して手放しにくい。</p>	<p>県の高齢者運転免許自主返納サポート協議会に加盟し、自主返納による特典に協力いただける企業等の募集をしています。現在、市内で受けられる特典については、路線バスやタクシー料金の割引や、飲食店や小売店等での割引です。 免許返納後の高齢者の移動手段の確保については、市全体の課題として検討を進めてまいります。</p>	【4-(5)高齢者が安全に暮らせる体制の推進】

No.	第1回資料5-2 該当ページ	意見	回答	対応する施策
28	45	<p>成年後見制度の啓発について。10月から成年後見支援センターができ、相談窓口が明確になり大変うれしく思う。今後、ますますひとり暮らしで身寄りのない高齢者が増加することは確実なので、相談できる場があるのは心強くもある。</p> <p>この制度を知っている人は、80%を超えて認知度は高いようだが、相談内容は個々に違うので安心して相談できる場があるという事をアピールしてほしい。</p>	<p>本年10月に開設予定の成年後見支援センターについては、現在、受託先である加古川市社会福祉協議会、及び弁護士・司法書士・社会福祉士の専門職とともに、市民が安心して相談できるセンターを目指し、まずは、広報機能と相談機能の整備を優先的に検討を進めています。</p>	<p>【4-(6) 高齢者の権利を守る取組の推進】 【4-(6)-② 成年後見制度の利用支援】</p>
29	48	<p>地域介護人材創出事業の詳細がわかりにくく、たとえば受講者は地域介護人材につながっているのか気になりました。</p>	<p>市内に在住・在勤している人を対象に、介護を行うにあたっての必要な知識・技術等の講習・研修を実施し、地域住民等の介護力の向上を図るとともに、介護人材のすそ野を広げることを目的に実施しておりますが、今後も事業を継続していく必要があると考えております。</p>	<p>【5-(1) 本人や家族の知識向上・技能習得のための支援の充実】</p>
30	49～51	<p>ボランティアの育成、シルバー人材センターの活動支援、NPOの活動支援に関して、進捗状況が「どちらともいえない」の評価である。アンケート結果でのボランティア活動への参加意向(一般高齢者)は22.4%である。いなみ野学園では、70%が活動されている。</p>	<p>ボランティア活動への参加意欲の高い高齢者が多くおられるという現状から、人材と活躍の場のマッチングの施策の検討が必要であると考えます。</p>	<p>【5-(2) ボランティア・NPOなどへの支援】</p>
31	50	<p>「シルバー人材センターの活動支援」とあるが、センターのチラシを「広報かがわ」と一緒に全戸配布されていたが中止になった。これは支援というより後退ではないでしょうか。人材を育成しても周知がなければ縮小してしまうのではないのでしょうか。ご検討ください。</p>	<p>全戸配布は中止になりましたが、タウン情報誌とともにポスティングにて配布されました。今後は、広報かがわの紙面上での周知についても検討していきます。</p>	<p>【5-(2) ボランティア・NPOなどへの支援】</p>
32	52	<p>今「トライやるウィーク」の事業所に介護分野の事業所が多く、将来の進路選択に興味を持ってもらいたいとの意味はわかるが、介護が必要でない元気な高齢者のつどいの場にも行って、地域愛、高齢者への偏見をなくす機会にしてほしい。</p>	<p>子どもたちが高齢者と地域で交流する機会をもつことは、とても大切なことであると思います。今後の事業実施の参考とさせていただきます。</p>	<p>【5-(3) 介護や相談業務に携わる人への支援の充実】</p>
33	52	<p>子どもたちに将来の進路として介護分野に・・・について、介護職の数は増えていると理解していますが、その増加数より、要介護者の増加数のほうが圧倒的に多いと推察します。介護に携わる人の創出や育成についても福祉だけでは困難なので、介護人材の収入(所得)問題等も含め、他施策・他計画での位置づけも重要だと考えます。</p>	<p>介護職員処遇改善加算により、介護職の収入について改善する施策がとられているものの、介護に携わる人の創出や育成は全国的な課題となっています。本市においても、他の計画、関係団体との連携を図っていきたく考えます。</p>	<p>【5-(3) 介護や相談業務に携わる人への支援の充実】</p>